

下總國卅六種<sup>略</sup>○中 獺肝二具<sup>略</sup>○中 美濃國六十二種<sup>略</sup>○中 獺肝三具<sup>略</sup>○中 越中國十六種<sup>略</sup>○中 獺

肝二具<sup>略</sup>○中 播磨國五十三種<sup>略</sup>○中 獺肝二具<sup>略</sup>○中 備中國卅二種<sup>略</sup>○中 獺肝三具<sup>略</sup>○中 備後國

廿八種<sup>略</sup>○中 獺肝三具

〔紀伊國續風土記 物產十下〕水獺<sup>ナツ</sup>本草 和本名乎曾<sup>ナツ</sup>康賴本草 各郡川澤池澮に多し

〔嬉遊笑覽<sup>禽十二</sup>〕嘉多言に、獺をかはうそと云は、苦しかるまじき歟、をそのたはれ尾とよめり、此け

だ物尾をふりて人をばかすといへり、世俗に偽をうそといふこと葉も是より起れりと云り、今

うそつき彌二郎藪の中で屁をひつたと、重のいふことも是よりなるべし、嘉多言に、をそのたは

れ尾とよめりとは、萬葉をいへるなんめれと、それは於曾の風流士とよみて、おそは癡鈍の義に

て、オヲとかなもたがひたり、たはれをは風流士にて、獺の尾にはあらずされども、今の諺は件の

間違ひたる説を取べし、

〔重修本草綱目啓蒙<sup>三十四</sup>〕山獺 ヤマヲソ 陰莖、一名山獺莖<sup>本經</sup> 插翹<sup>春</sup>廣東

和産詳ナラザレドモ、字ニヨツテ從來ヤマヲソト訓ズ、今能州ニヤマヲソト呼ブモノアレドモ、

水獺ノ一種虎斑アルモノニシテ、別ナリ、山獺ノ陰莖ヲ藥用トス、一枚直金一兩ト云、華夷鳥獸考

ニ、一枚直黄金數兩、人得其一、則立可致富ト云フ、廣東新語ニ、其以猿爲雌者、插翹山獺也、語曰、猿鳴

而獺候、莊子曰、猿獼狙以爲雌、言非類爲牝牡也、鄭氏云、山獺性淫而無偶、猿女采樵歌獻爲猿聲以誘

之、山獺聞之、卽躍抱、猿女因扼殺之ト云フ、

〔倭名類聚抄<sup>十八</sup>〕茸鹿 本朝式云、茸鹿皮、和名阿<sup>〇</sup>之加<sup>〇</sup>、見于陸奥<sup>〇</sup>、出羽

〔箋注倭名類聚抄<sup>七</sup>〕延喜民部式下、載交易雜物、陸奥出羽二國並有茸鹿皮、今本式誤衍、作鹿茸

鹿皮、日本後紀弘仁元年公卿奏言、引大同二年下、彈正臺例、有獨射犴茸鹿、獾皮等一切禁斷之

文<sup>〇</sup>中 按本草拾遺云、海獺、大如犬、脚下有皮、如人胼、拇毛著水不濡、是可以充茸鹿也、

山獺

海鹿